

青年部 だより

ふれあいを実感した一日

青年部副部長 岡田 大

仲間の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

昨年12月5日、恒例の“ふれあい餅つき大会”が海の子学園にて、青年部、執行部、一般組合員17分会・計41名の参加で開催されました。

青年部役員が中心となりベテラン、初参加組合員が力を合わせ、滞りなく準備が進み、いざ、餅つき大会の始まりです！

子供たちが一生懸命に送ってくれる声援が、餅をつく私たちの力となり、順調に餅がつきあがっていきました。

組合員と高学年の子供たちがバシバシ餅をつき、仕上げを小さな子供たちが行う連携で、なんとも美味しそうな餅ができあがりました。皆も大絶賛、様々な味付けのできたての餅を美味しく頬張る子供たちをみて、私もうれしくなり

ました。子供たちに大人気のフランクフルトも全部なくなり、正に一丸となって、“触れ合い”を実感しました。

午後からは座談会、ドッチボールと紙芝居。私は座談会に出席した。



ました。そこで、中学3年生、高校1年生と話す中、気になったのは、学園の外では人見知りになってしまうということ、そして、外では怖くて買い物ができないという話でした。

青年部で、こういうことの解決の支援ができないかと考えましたが、やはり、彼らとの交流を増やすことで、多様な大人に出会い、少しずつでも、知らない相手でも会話ができるようになればいいと思いました。

校庭では、ドッチボールをしている子供たちのはしゃぐ声が聞こえ、白熱した状況が室内の私にも伝わってきました。

こうして楽しい一日が過ぎ、閉会のあいさつが行われました。子供たちから、ありがとうございましたとお礼を言われたことがすごく嬉しく、全力で子供たちと触れあえたことが何より良かったと感じた一日でした。

来年に向けて、しっかり総括し、いっそう充実したもちつき大会となるよう、青年部を盛り上げていこうと思いました。

歓迎

新加入組合員

(2015.12 ~ 2016.11)

大阪サンエー分会

松本 勝裕
森 泰樹
宮本 美仁

中谷運送分会

池尾 敬介
木浦 浩一

此花荷役分会

平田 恭介

堂島分会

原田 武
上田 雅己

新正大分会

藤本 史登
望月 三広
豊島 和敏

大阪機船分会

藤田 昌弘
外竹 真一

石本文一

大東港運分会

嵯峨山 裕二

朽木協働分会

増田 圭介

神崎運輸分会

柏原 浩一
西蔭 治人

太陽陸運分会

片岡 真樹
海田 剛一

ガクミ加物流分会

山田 貢

ミナト産業分会

松井 公志朗
古田 茂

港石油分会

杉川 歩
第一商事分会
齊藤 克教

サユ-サービス分会

田中 昭信

大正埠頭分会

高城 臣斗
上田 勇輝
米田 貴之

(敬称略・順不同)



だんけつ

第307号 2017年1月1日



発行責任者 大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 国分仁昭



今年も奮闘しよう！

執行委員長 樋口 万浩

組合員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年10月8日の支部第40回定期大会から早2ヵ月が過ぎました。現在、山元前委員長の指導を仰ぎつつ、支部の前途について、四役会議、執行委員会、組織部などでの議論を重ねています。

その中で、やはり、現在の支部にとっては、組織強化拡大が最大の課題であると再認識しているところです。

強化拡大の具体化については、組合員の横のつながりを重視し、組合員やその家族の友人・知人への働きかけを強化すること。あるいは、地域の未組織労働者を組織できるつながりを創る。さらには支部執行部と組合員との連携を大切にすることなどが必要と感じました。

組合員の皆さんには、今後企画される支部活動に積極的に参加をいただきながら、種々の意見をお聞かせ願いたいと思っています。

国内情勢では、7月の参議院選

挙で衆参両院において、改憲に必要である「3分の2以上」を確保した安倍政権による暴走が続いています。

企業が労働者をより安上がりには使うことを目的に、非正規労働者が増大されてきましたが、安倍政権は、その上、残業代を払わなくて済む労基法の改悪（ホワイトカラー・エグゼンプション）や、金銭でいつでも労働者を解雇することができる「解雇の金銭解決制度」などの法改悪をもくろんでいます。

年金制度においても、年金カット法案が強行成立させられました。

政治的にも多くの課題がありますが、緊要の課題である辺野古・新基地建設反対闘争では、安倍政権は、キャンプ・シュワブゲート前に、警視庁をはじめ他府県から機動隊を送り込み、座り込む反対派市民に暴力を振るう、拳銃の果てに不当逮捕まで行うなど、激しい弾圧を行っていますが、許してはなりません。

自民党内では、安倍の総裁（独

裁）任期を「異論なし」で、連続3期・9年に延長しました。

他にも自衛隊の南スーダンにおける駆けつけ警護という名の戦争参加や、原発再稼働や治安立法の強化など、枚挙にいとまがないほど国民無視の政策を強行しています。次期衆議院選では、「野党統一候補」の樹立によって、自公候補を追い落とさなければなりません。

近年は、秋年末闘争が終わるとすぐ春闘前段の各級の討論集会が始まり、来年2月にかけてあわただしい日程となっています。各分会では、今春闘で組合員の皆さんが、まず企業との間で、賃金その他の労働条件や労働環境の改善をどう進めるのか、そのうえで支部としての春闘をどう構築していくのかについて、十分な議論と、各場面での意見交換の準備をお願いします。

この1年をやりあるものにするために、結集をよろしく願います。

「沖縄に基地はいらない! 12・10おおさか総がかり集会」が12月10日、扇町公園にて開催されました。

最初に沖縄からの連帯あいさつとして、参議院議員・「オール沖縄」幹事長の伊波洋一さんが沖縄の現状を報告しました。

「基地建設反対運動の激しい弾圧が続いている。辺野古新基地や高江のオスプレイ・パッドの建設によって、貴重な海洋生物やヤンバルの森の生態系が破壊されている。また、大阪府警の機動隊による「土人」差別発言も許せないが、これを容認する大阪府知事や沖縄担当大臣も許



集会宣言では、「沖縄県民と連帯し、辺野古への新基地建設や高江のオスプレイ・パッド建設工事の中止、普天間飛行場の

闘う」ことを宣言しました。

集会後は2コースに分かれてデモ行進を行いました。

当日は、主催者発表で4000人

おおさか総がかり集会

安倍政権に終止符を打とう!

執行部 吉本 賢一

せない」などとアピールしました。

その後、各分野からのリレートークと各政党(自由党、社民党、日本共産党、民進党)から4名の方があいさつされた。

閉鎖と速やかな返還、米海兵隊の沖縄からの撤退、不平等な日米地位協定の抜本的な改定を求めるとともに、戦争法の廃止と南スーダンへのPKO派遣の中止を求め、いっそう力を結集し

が結集し、わが全港湾も5割動員で参加しました。

安倍政権は、沖縄差別、原発再稼働、労働法制の改悪、社会保障の切り下げなど、今の流行の言い方と言うならば、「アメリカ・ファースト」に盲進し、日本の民衆の生活を破壊しています。この意味では、やはり、政治闘争は重要だと思います。

アメリカ大統領の交代で、在日米軍維持費のさらなる負担増を求められる可能性が高まっています。安倍政権に終止符を打つべく、当面、沖縄のように野党共闘の実現が重要だと思います。



岩国国際連帯集会

日本全土に拡大する日米軍事基地

執行部 陣内 恒治

「岩国希望の祭」と国際連帯集会

国際連帯集会が12月10・11日、山口県岩国市で開催され、支部からは林書記長、山本組合員(関西海運分会)、萩原組合員(大正埠頭分会)、私の計4名が参加した。

10日は、岩国シンフォニーホールにて、歌を通じて平和を訴える「岩国希望の祭」。海外や全国各地からの参加者約200名が、地元の子どもの「よさこい」踊りや、まーちゃんバンドのLIVEなどを楽しんだ。



その後、岩国福祉会館にて「国際連帯集会」が開催された。

集会冒頭、田村順玄さん(岩国市会議員)が、岩国の米軍基地が強化されている状況と闘いの強化を訴えた。

その後、多彩なゲスト陣が、それぞれの闘いを報告した。

沖縄・ヘリ基地反対協会の安次富浩さんは、辺野古では非暴力の闘いで20年間、新基地建設を阻止してきたが、今は正念場にさしかかっていること。京丹後からは米軍エックスバンドレーダー基地問題、神奈川からは米軍艦載機移転問題、横田基地で闘う大森進さん(東京全労協議

長)は、各労働組合が共に基地問題を考え、沖縄の基地負担を軽減させる共同構想を提案した。



韓国からのホ・ヨングさん、チョ・チャンスさんはパク・クネ退陣要求の集会は100万人以上に膨れ上がり、12月3日には即刻退陣を求める大集会に、232万人が参加したとの報告がなされた。

フィリピンからのゲストは、25年前に2つの米軍基地撤去を勝ち取り、「民衆は団結したら決して負けない!」と訴えた。

労働者が団結した労働者反戦交流集会

11日の「労働者反戦交流集会」で、特別アピールを行った安次富浩さんは、「今、沖縄で起きていることは、明治政府が18



79年に琉球を武力併合した琉球処分と同じである。高江では反対派市民に、大阪府警の機動隊員が「土人」など差別発言を行ったが、政府は「差別と断定できない」と擁護した。今後、沖縄の海兵隊は減少していくことが明確になっているにもかかわらず、日本政府の都合で基地の強化が進められている。これからは国際的に沖縄の基地問題を訴え、日本全国で様々な運動を展開しなければ何も変わらない」と訴えた。

労働運動の共闘を拡大しよう!

2017年は高江・辺野古の基地建設問題だけでなく、厚木基地から岩国に59機の艦載機が移転、オスプレイの訓練は全国各地の住宅地で日常化している。米軍のために私たちの生活が脅かされている中で、沖縄に止まらずヤマトの闘いが重要となっている。軍事のために社会保障が交代するような世の中を変えなければいけない。

労働者が闘いの再構築のための前面に出よう!